

日本語の「ちょっと」に相当する中国語表現： “有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の習得状況に関する一考察

王 振宇・李 小捷

アブストラクト

日本語の「ちょっと」には中国語で“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”などの表現が対応するが、これらの表現の使い分けは中国語学習者をしばしば混乱させる。筆者は立命館アジア太平洋大学の中国語履修生を被験者に“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の習得状況に関するペーパーテスト調査を実施した。本論文ではその調査結果をもとに分析を行い、“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の誤用がどのような形で現れているか、誤用の原因が何かを考察した。“有点儿”については、消極的意味を示す形容詞では高い正答率が得られたが、一方、中性的・積極的意味を示す形容詞では“有点儿”を用いた誤答のパターンが多く見られる。“一点儿”については、名詞を修飾する不定量詞の“一点儿”の誤答は比較的少ないが、形容詞の後ろに置き、比較の意味を表す“一点儿”の誤答率が非常に高い。“一下儿”については、連動文における誤答が極めて目立っている。筆者はこれらの問題を解決するために、いかなる対策を取るべきかについて提案した。

キーワード：誤用分析、中国語学習者、有点儿、一点儿、一下儿

1. はじめに

日本語の「ちょっと」に相当する中国語の表現は“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”などである。

- (1) 今日はちょっと暑い。
今天有点儿热。
- (2) 水をちょっと飲んでください。
请喝一点儿水。
- (3) ちょっと休憩しましょう。
休息一下儿吧。

このように一つの日本語の表現が複数の中国語の表現に対応する場合、往々にしてその使い分けが中国語学習者を混乱させるものである。

筆者は“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の習得状況を把握することを目的とし、2012年7月に立命館アジア太平洋大学 (APU) の中国語学習者を被験者に調査を行った。被験者の学習レベル、学習時間については表1に示すとおりである。なお、調査データの使用については、被験者となった学生たちのインフォームド・コンセントを得ている。

表1 被験者情報

	中国語 I	中国語 II	中国語 III	中国語 IV
授業での学習時間 (調査時迄)	約 72 時間	約 144 時間	約 216 時間	約 288 時間
被験者数 (被験者所属クラス)	58 人 (3 クラス)	54 人 (3 クラス)	21 人 (2 クラス)	16 人 (1 クラス)

調査の方法はペーパーテストの形である。“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の三択問題を27問作成した。調査文の殆どは学習者の普段の作文や試験などにおける誤用例をもとに作成したものである。調査問題に用いた単語は被験者が中

国語 I の段階においてすでに習い終えたものである。なお、問題の作成に当たり、いろいろな工夫をした。たとえば、“有点儿”は形容詞の前にはか用いられず、“一下儿”は動詞の後ろにはか現れない。被験者がこういった統語上の特徴により、“有点儿”、“一下儿”の選択を安易に行ってしまう可能性があると考え、用言の前も後もブランクにする方法を取っている。

下記において、今回の調査結果をまとめ、“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”の習得状況、誤用の原因、今後の対策について論じる。

2. 調査結果と分析

2.1 “有点儿”の誤用分析

“有点儿”は「ちょっと」、「少し」の意味を表す副詞である。呂(1999)は次のように記述している。

(日本語訳は筆者)

有点儿：表示程度不高；稍微。多用于不如意的事情。

(程度が高くないことを表す。「ちょっと」の意味。不如意な事柄に使われることが多い。)

相原ほか(1996)は“有点儿”について「「ちょっとイヤだな」という不本意な気持ちが含まれる」と指摘し、次のように定義している。

“有点儿”は「ある基準や期待値と少しズレがある」と感ずることを表す「ちょっと」の意味の副詞です。

ここでは“有点儿”の例文を少しばかり挙げる。

(例文は伊地智(2002)より借用)

- (4) 这个人有点儿糊涂。
こいつは少しいかれている。
- (5) 他今天有点儿紧张。
彼は今日ちょっとびりびりしている。
- (6) 我身上有点儿不舒服。
彼は少し体の具体がよくない。

今回の調査では、「“有点儿”+形容詞」について次の5問を作成している。

(調査票には日本語訳はない。以下同じ)。

- (7) 我()累(), 想休息。
私はちょっと疲れたので休みたい。
- (8) 我肚子()疼(), 我想去医院。
私はおなかがちよっと痛いので病院に行きたい。
- (9) 教室里()热(), 开空调吧。
教室はちょっと暑いのでクーラーを入れよう。
- (10) 我()渴(), 我想喝水。
私はちょっとのどが渴いたので水を飲みたい。
- (11) 今天的考试()难()。
今日の試験はちょっと難しい。

“有点儿”は形容詞のほか、心理活動を表す動詞とも共起する((12)、(13)参照)。「“有点儿”+動詞」の用法が被

験者の中国語 I、II の教科書で取り上げられていないため、今回は「“有点儿”+形容詞」だけを調査対象とした。

(例文は伊地智(2002)より借用)

(12) 我有点儿想家。

私はちょっと家が恋しい。

(13) 爸爸稍微有点儿生气。

お父さんは少々腹を立てている。

“有点儿”は消極的意味や中性の意味を示す形容詞と共起するが、積極的意味を示す形容詞とは共起しない。中国語 I の教科書(張ほか(2008))はこの意味用法について次のように述べている。

程度の軽いことを表わします。形容詞の前に用い、往々評価が余り芳しくないことを表わします。「一」は省略可能。

図1が示すように、被験者は(7)~(10)の4問で比較的高い正答率を示している。その原因は、“有点儿”の意味的特徴が教科書で明確に説明されており、中国語 I 第2課の本文には“有点儿累”(ちょっと疲れる)として、同第5課の本文には“有点儿疼”(ちょっと痛い)として頻繁に使用されているからだと考えられる。

(11) “有点儿渴”(ちょっと渴いている)の平均正答率は70%を下回っている。“渴”(渴く)の語形が“喝”(飲む)と非常に似ていることから、筆者は被験者が“渴”を“喝”と思い込んだところから生じた誤答ではないかと想定し、誤答の内容を統計にした。その結果、90%以上が“有点儿渴”とすべきところを“渴一下儿”と誤答したことが分かった。“一下儿”は後述するように、動詞の後ろに置いて動作時間の短いことを表わす量詞である。この結果により、上の想定が裏付けられた。

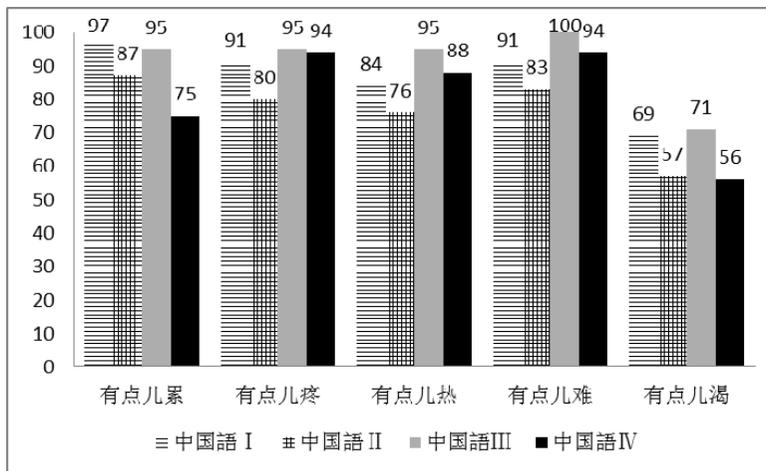


図1 「“有点儿”+形容詞」の正答率(単位は%)

2.2 “一点儿”の誤用分析

量詞の“一点儿”は二つに分けられる。一つは名詞の前に置いて「ちょっとした量の～」、「少しの～」などの意味を表す不定量詞である。“一点儿”の“一”は省略できる。たとえば、

(例文は筆者)

(14) 我们买一点儿水果吧。

果物をちょっと買しましょう。

(15) 我想喝点儿咖啡。

コーヒーをちょっと飲みたい。

もう一つの“一点儿”は形容詞の後ろに置いて「(その他と比べて) ちょっと～だ」の意味を表すものである。たとえば、

(例文は筆者)

(16) 今天热一点儿。

今日は(昨日などと比べて) ちょっと暑い。

(17) 你的汉语好一点儿。

あなたの中国語は(その他の学生と比べて) 少し上手だ。

“一点儿”は先述した“有点儿”と同様に不如意なことにも用いられる(例(18)参照)。

(18) 这双鞋贵一点儿。

この靴は値段がちょっと高い。

ところが、“一点儿”は“有点儿”と比べて、「話し手の気持ちが込められる度合いが少ない」、「基準点をはっきりしている」(中川(1991))。両者の相違は(19)と(20)にも表れる。たとえば、(19)は彼の運転速度が他の人に比べ、「ちょっと速い」と感じる時の発話である。一方、(20)は彼の運転速度が話し手の理想的な速度とはズレがあり、「ちょっと速い」と感じる時の発話である。前者は“比我”(私より)などの比較表現と共起できるのに対し((21)a 参照)、後者は比較表現と共起できない((21)b 参照)。

(19) 他 的 车 开 得 快 一点儿。

彼 PART¹ 車 運転する PART 速い ちょっと

彼の運転速度は(他の誰かに比べて) ちょっと速い。

(20) 他 的 车 开 得 有点儿 快。

彼 PART 車 運転する PART ちょっと 速い

彼の運転速度はちょっと速い。

(21) a. 他 的 车 比 我 开 得 快 一点儿。

彼 PART 車 比べる 私 運転する PART 速い ちょっと

彼の運転速度は私よりちょっと速い。

b. *他 的 车 比 我 开 得 有点儿 快。

彼 PART 車 比べる 私 運転する PART ちょっと 速い

今回の調査では、「一点儿」+名詞」に4つの調査文、「形容詞+“一点儿”」に7つの調査文をそれぞれ作成している。調査の結果、前者の正答率が後者より圧倒的に高いことが分かった。以下では統語位置が異なった2つの“一点儿”に関する調査結果をそれぞれ分析していく。

¹ 本稿の略語、記号について、PART は助詞、「*」は当該の文が非文であることを示す。

2.2.1 「“一点儿”＋名詞」の誤用と分析

「“一点儿”＋名詞」については次の4つの問題を作成している。

(22) 他会说()日语。

彼は日本語がちょっとできる。

(23) 我钱包里有()钱。

私の財布にはお金がちょっと入っている。

(24) 我今天中午吃了()面包。

私は今日の昼、パンをちょっと食べた。

(25) 昨天家里没有菜了，我去超市买了()菜。

昨日家にはおかずがなかった。私はスーパーへ行っちょっと買った。

この4つの中、(23)～(25)の正答率は図2が示すように、比較的高い。一方、(22)の正答率が最も低い。その中、“他会说一下儿日语”の誤答が多い。このような結果から、目的語の意味特徴と被験者の習得状況との相関関係が分かった。つまり、“钱”(お金)、“面包”(パン)、“菜”(おかず)など個数で数えられる名詞の前に“一点儿”を使うことは正確に習得されているのに対し、“日语”(日本語)のような個数で数えられない抽象名詞に“一点儿”を使うことにはまだ習熟していないということだ。実際、不定量詞“一点儿”は“日语”(日本語)、“网球”(テニス)、“钢琴”(ピアノ)、“卡拉OK”(OK)など個数で数えられない名詞を修飾することもできる。(26)、(27)の“一点儿”は「～できる」の意味を表す助動詞“会”と共に、「テニスをプレーする」、「ピアノを弾く」、「料理を作る」、「歌を歌う」などの技能のレベルが低いことを表す。たとえば、

(例文は筆者)

(26) 他会打点几网球。

彼はテニスがちょっとできる。

(27) 她会弹点几钢琴。

彼女はピアノがちょっとできる。

(28) A: 你会做菜吗?

料理を作れる?

B: 会做点几。

ちょっとできる。

(29) 这首歌我会唱点几，不过唱得不好。

この歌はちょっとは歌えるが、うまく歌えない。

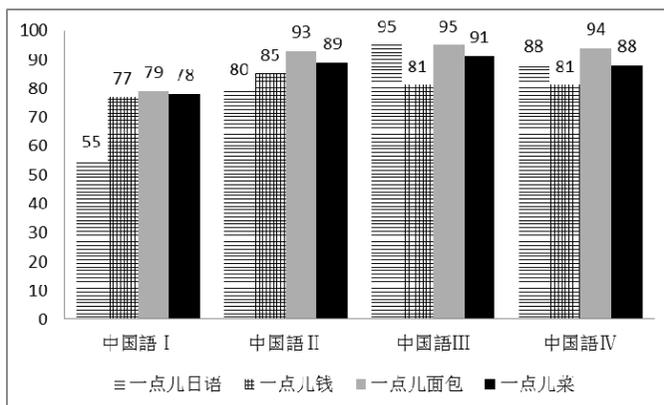


図2 「“一点儿” + 名詞」の正答率 (単位は%)

2.2.2 「形容詞 + “一点儿”」の誤用と分析

「形容詞 + “一点儿”」については次のような7つの問題を作成している ((30)～(36)参照)。筆者はこれらの調査問題を作成する際、指示詞、時間詞などを用いて「比較」の意味をできるだけ明確化する工夫をしている。

- (30) 那件衣服 () 好看 (), 买那件吧。
あの服はちょっときれいだから、あの服を買おう。
- (31) 昨天非常冷, 今天 () 暖和 ()。
昨日は非常に寒かった。今日はちょっと暖かい。
- (32) 太贵了! () 便宜 () 吧。
高すぎます。ちょっと安くしようよ。
- (33) 最近这个餐厅的咖啡 () 好喝 () 了。
最近このレストランのコーヒーはちょっとおいしくなった。
- (34) 我不太会说汉语, 我朋友的汉语 () 好 ()。
私の中国語はあまり上手ではないが、私の友達の中国語は少し上手だ。
- (35) 今天的考试难, 昨天的考试 () 简单 ()。
今日の試験は難しかった。昨日の試験はちょっと簡単だった。
- (36) 日本的苹果 () 好吃 (), 但是很贵。
日本のりんごはちょっとおいしいが、値段が高い。

図5はこれらの問題の正答率を示すものである。問題別の結果から、被験者の学習時間が長くなるにつれて、正答率が高くなることが分かった。ところが、全体の正答率は、中国語IVにおいても80%を下回る低い値に止まっている。その中、“一点儿”の「比較」の意味用法に対する認識が不足しており、形容詞の前に“有点儿”、“一点儿”を用いる誤答のパターンが最も多い。

図3、図4はそれぞれ“好看一点儿”、“暖和一点儿”の誤答の比率をパターン別に示すものである。本来“好看一点儿”、“暖和一点儿”とすべきところを“有点儿好看”、“有点儿暖和”とした誤答がいずれも全誤答数の50%を上回っている。

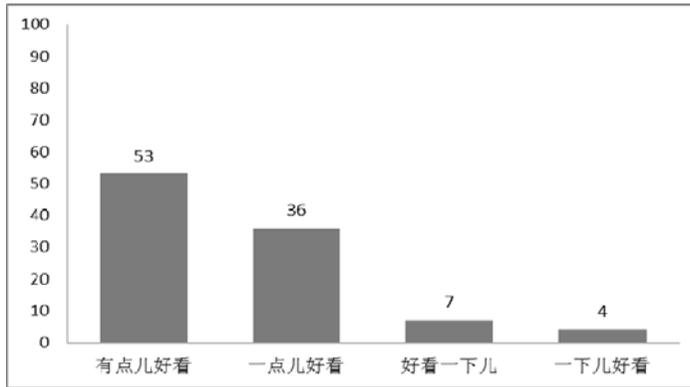


図3 “好看一点儿”の誤答（単位は%）

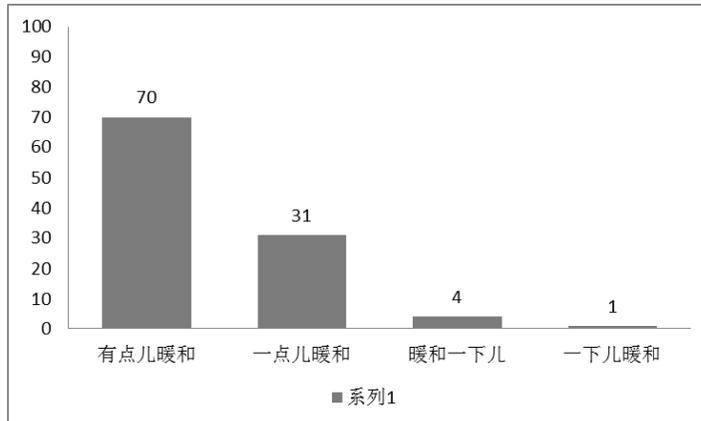


図4 “暖和一点儿”の誤答（単位は%）

問題文(32)の正答率がほかの問題文より高い。これは被験者が“便宜一点儿吧”（ちょっと安くしようよ。）という値切る時の常用表現を定型文として丸ごと覚えた結果ではないかと考えられる。

現行の多くの中国語教科書には、「比較」の意味を表す「形容詞＋“一点儿”」を単文の中で取り上げて説明するものが多い。今後の改善策として、単文ではなく、文脈を提示することにより、「形容詞＋“一点儿”」の「比較」の意味を取り立てて説明することが重要だと考える。

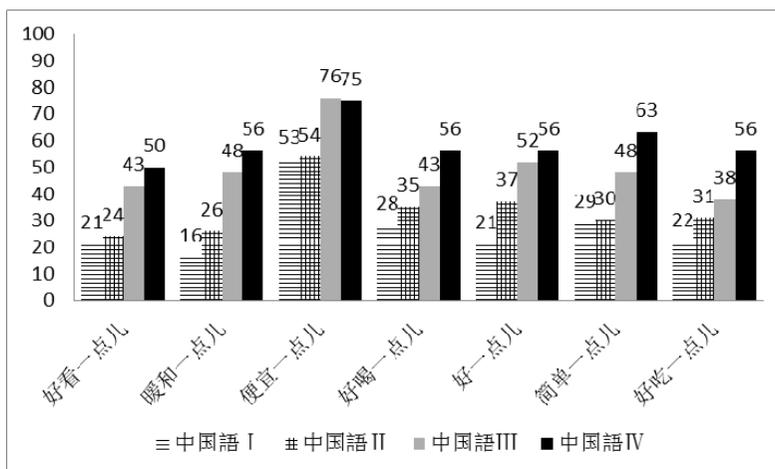


図5 「形容词+“一点儿”」の正答率（単位は%）

2.3 “一下儿”の誤用分析

“下（儿）”には二つの用法がある。一つは量詞であり、動作の回数の数え方である。次のようなものである。

（例文(37)は本稿筆者、(38)(39)は伊地智(2002)）

(37) 他先敲了一下儿，然后，又敲了两下儿。

彼はまず一回叩いた。そして、さらに二回叩いた。

(38) 撞了三下钟。

鐘を三度突いた。

(39) 我敲门敲了很多下，他才听见。

私が何度もドアをノックして、やっと彼に聞こえた。

もう一つの“下（儿）”は数詞“一”としか共起せず、動作の時間が短いことを表す。次のようなものである。

（例文は伊地智(2002)）

(40) 请等一下。

少しだけ待ってください。

(41) 请你出去一下，我们有点儿事情要个别谈谈。

少しの間外に出ていただいただけませんか、私たちは少し個人的に話すことがありますので。

(42) 袁先生，我介绍一下，这是王教授。

袁先生、ご紹介します、こちらは王教授です。

中国語 I の教科書（張ほか 2008）は“一下儿”について次のように述べている。

動詞の後ろに置いて動作の短さ、軽さなどを強調したり、口調を和らげたりする。

（例文は張ほか(2008)）

(43) 那我去那儿复习一下儿功课。

それでは、私はそこへ行っちゃってちょっと復習する。

(44) 你帮我请一下儿假，好吗？

私が休むことをちょっと伝えてもらえない？

今回は語調を和らげる用法の“一下儿”を対象に調査した。次の問題文を作成している。

(45) 今天下午你能来（ ）我的研究室吗？

今日の午後、私のオフィスにちょっと来てもらえない？

(46) 我有点儿累，想休息（ ）。

私はちょっと疲れた。ちょっと休みたい。

(47) 明天要考试了。我想复习（ ）。

明日は試験だ。ちょっと復習したい。

(48) 我可以看（ ）你的生日礼物吗？

ちょっと誕生日のプレゼントを見てもいい？

(49) 今天天气很冷，请关（ ）门，好吗？

今日は寒い。ちょっとドアを閉めてもらえない？

(50) 我去（ ）银行，你跟我一起去吗？

私はちょっと銀行に行く。一緒に行く？

(51) 请在这儿写（ ）你的名字。

ちょっとここにお名前を書いて。

(52) 你等（ ）我，好吗？

ちょっと私を待ってくれる？

(53) 下雨了！等一下，我去（ ）拿（ ）我的雨伞。

雨が降り出した。ちょっと待って。ちょっと傘を取りに行く。

(54) 这个字怎么念？我们去（ ）问（ ）老师吧。

この字はどう読む？ちょっと先生に聞きに行こう。

図6が示すように、問題文(45)～(52)の正答率は比較的高い。その中、特に目的語を伴わない場合や“研究室”や“銀行”などの場所名詞を目的語とする場合、“你的名字”（あなたの名前），“我”（私）のような個数で数えられない名詞の場合は正答率が非常に高い。ところが、“生日礼物”（誕生日のプレゼント），“门”（ドア）のような個数で数えられる名詞の場合は正答率が低くなり、事物のわずかな量を表す“一点儿”を誤答する傾向が見られる。このような結果から、被験者が目的語の意味（量化可能か否か）に基づいて判断を下していることが分かった。

一方、問題文(53)、(54)の正答率は非常に低い。この二文はいずれも2つの動作が相次いで起こることを表す「連動文」である。連動文には2つの動詞が用いられるが、「ちょっと」を表す“一下儿”が2番目の動詞の後ろに置かねばならない。この文法ポイントが中国語IVまでの教科書に取り上げられていないことが多くの誤答を生んだひとつの原因と考えられる。今後の対策として、連動文を教える際に“一下儿”を用いた練習が必要だと考える。

ところで、今回の調査では、“一点儿”と“一下儿”がいずれも正解であるような問題文を3つ作成している（(55)～(57)参照）。

(55) 我很饿，想吃（ ）东西。

私はお腹がとても空いている。ちょっと食べ物を食べたい。

(56) 我去超市买（ ）水果。

私はちょっとスーパーへ果物を買っていく。

(57) 我回家拿 () 东西, 马上就来。

私はちょっと家に帰って忘れ物を取ってくる。すぐに戻ってくる。

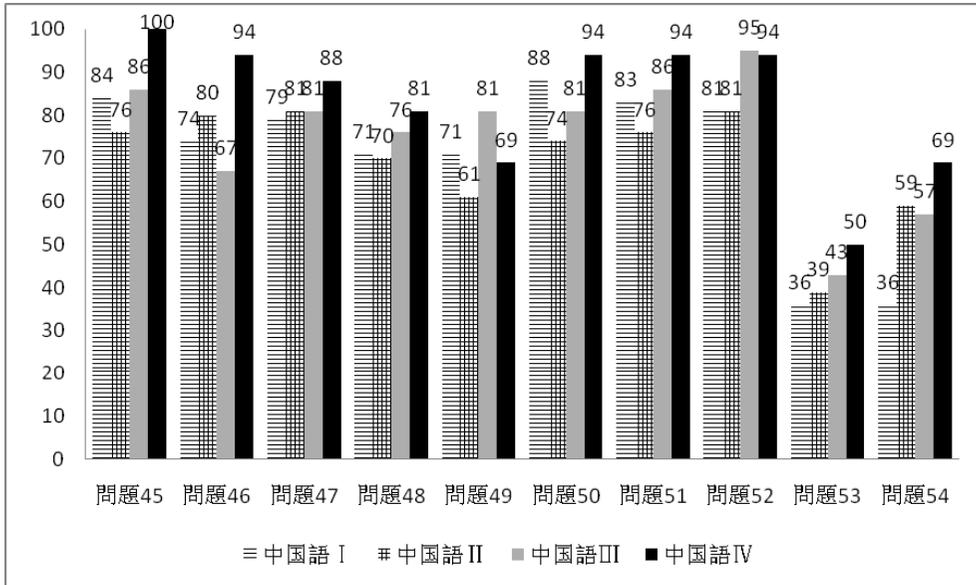


図6 「動詞+“一下儿”」の正答率 (単位は%)

これらの問題文には“一点儿”も“一下儿”も用いられるが、意味するところが異なっている。“一点儿”は修飾した事物の量がわずかであることを表す。一方、後者は動作が持続する時間量が短いことを表す。

両者の相違は(58)aとbの違いに表れる。(58)aの“一点儿”はドアの開いた隙間が狭いことを表すのに対し、(58)bの“一下儿”はドアの開いた時間が短いことを表す。図7と図8は学生に“一点儿”と“一下儿”の相違を理解してもらうのに役立つと考えられる。

(58) a. 门开了一点儿。

ドアがちょっと開いている。

b. 门开了一下儿。

ドアがちょっとの間開いた。

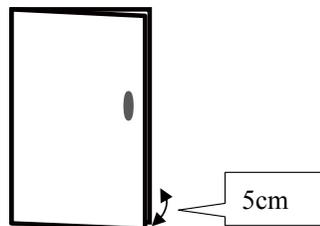


図7 “门开了一点儿”

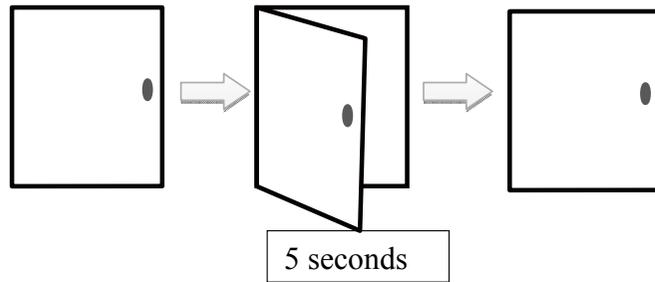


図8 “门开了一下儿”

図9、図10の統計結果から、問題文(55)と(56)では、被験者が“一点儿”を選ぶ傾向が圧倒的に高いことが分かった。その原因は事物の数量を限定することは動作時間の限定より具体的なものであり、より簡単に行うことができるからだと考えられる。

ところが、図11が示すように、同じく事物を表す名詞“东西”(もの)が目的語となる(57)では、“一下儿”を選んだ回答が(55)、(56)よりやや高い。その理由は、(57)の後続文に時間副詞“马上”(すぐに)があるため、被験者が動作の時間量のほうに注意を払っているからではないかと考えられる。

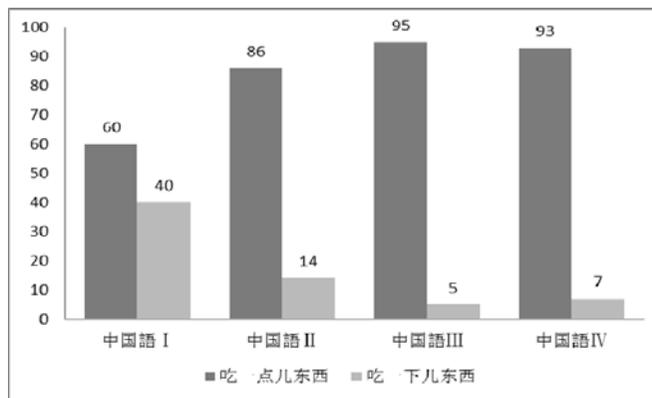


図9 “吃一点儿东西”と“吃一下儿东西”(単位は%)

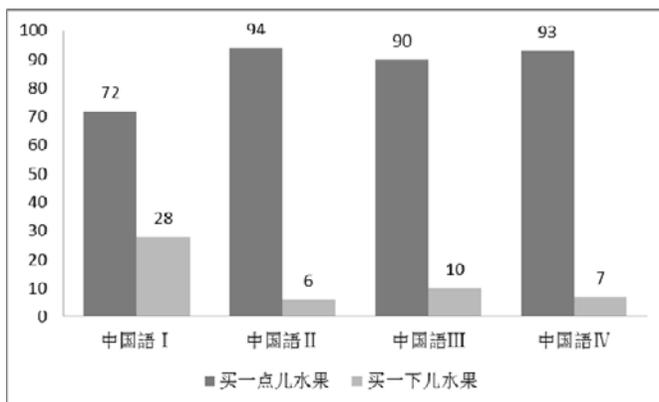


図10 “买一点儿水果”と“买一下儿水果”(単位は%)

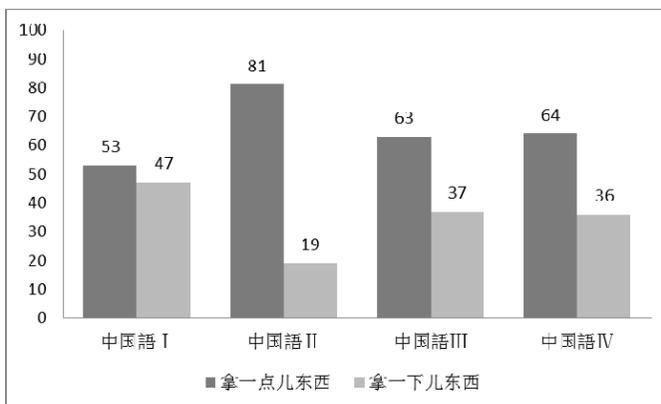


図11 “拿一点儿东西”と“拿一下儿东西”(単位は%)

3. おわりに

本稿は中国語学習者が混同しやすい“有点儿”、“一点儿”、“一下儿”という3つの表現について、調査で得たデータをもとに、習得状況や誤用原因を分析考察した。調査結果から、以下のことが言える。

全体的に言えば、学習時間が長くなるにつれて習熟度が高くなり、誤答率が減ってくるといえる。項目別に問題点をまとめると、まず、“有点儿”については、“累”(疲れている)、“饿”(お腹がすいている)、“热”(暑い)、“难”(難しい)などの消極的の意味を示す形容詞では高い正答率が得られたが、一方、“暖和”(暖かい)、“好吃”(おいしい)などのような中性的・積極的の意味を示す形容詞では“有点儿”を用いた誤答のパターンが多く見られる。今後、形容詞を積極的の意味のもの、消極的の意味のもの、中性的の意味のものに整理して学生に示す工夫が必要であると考えられる。次に、“一点儿”については、名詞を修飾する不定量詞の“一点儿”の誤答は比較的少ないが、形容詞の後ろに置き、比較の意味を表す“一点儿”の誤答率が非常に高い。今後の改善策として、「形容詞+“一点儿”」を特定の文脈の中で提示し、その「比較」の意味を取り立てて説明することが重要だと考える。さらに、“一下儿”については、連動文における誤答が極めて目立っている。今後は連動文を教える際に“一下儿”を用いた練習が必要だと考える。最後に、今回の考察対象に入れなかったが、動作の時間量が少量であることを示す“一会儿”などの表現に関する調査分析については今後の課題にしたい。

参考文献

- 相原茂・木村英樹・杉村博文・中川正之(1991)『中国語学習 Q&A101』大修館
相原茂・石田知子・戸沼市子(1996)『whyにこたえるはじめての中国語の文法書』同学社
相原茂・荒川清秀・喜多山幸子・玄宜青・佐藤進・楊凱榮(2000)『中国語学習 Q&A101』大修館
伊地智善繼編(2002)『白水社中国語辞典』白水社
張美霞・陳薇著，是永駿監修(2008)『加油！中国語』郁文堂
中川正之(1991)「“有点儿”と“一点儿”」，『中国語学習 Q&A101』大修館
李德津・陳美珍(2008)『外国人实用汉语语法』北京语言大学出版社
刘月华・潘文娛・故韡(2001)『实用现代汉语语法』商务印书馆
吕叔湘(1999)『现代汉语八百词（增订本）』商务印书馆

謝辞 本稿の執筆に当たり、ポリグロシア編集委員会の皆様から有益なコメントを頂きました。
心より感謝申し上げます。